



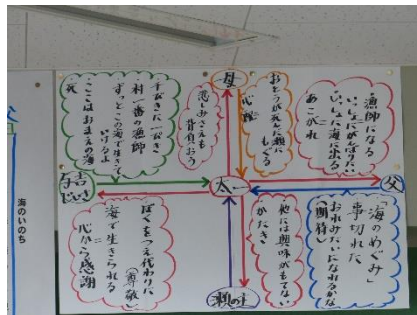
未来を夢見て Season 2

2021/9/10 No. 98

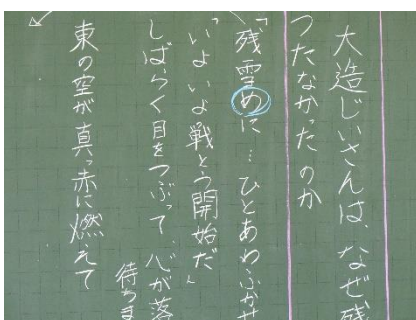
文学的教材文の授業の実際

～6年生「海のいのち」 5年生「大造じいさんとがん」～

9月10日（金）最高気温が29℃にも届く真夏に戻ったかのような1日となりました。来週の市町村と宮城県教育委員会との連携サポート事業（※通称「連サポ」）に向けて、準備も本格化してきました。中でも授業提案する5年生と6年生では先行授業が始まりました。9日（木）は6年4組で渡辺優先生、10日（金）は5年3組で安田暁人先生が授業を提案してくださいました。



まず6年生。流石に6年間国語で育てられた子供たちだけあって、授業に集中して取り組む姿は全校のお手本になるような素晴らしさでした。また、発言には、本教材のテーマである、「海」や「いのち」に迫る内容のものもあって、これまで7時間の読みの確かさを感じることができました。また、学習課題「太一が瀬の主をうたなかつた理由」について、一人一人がしっかり考えて自分の考えをノートにまとめている姿が印象的でした。



そして、5年生。きれいに磨き上げられた黒板、前方には余計な掲示物は貼らず、子供たちが黒板に集中しやすいように配慮している教室経営は、本校ではあまり目にしない光景でした。子供たちは学習訓練が行き届いていて、うなずきながら話を聞いたり、ハンドサインで意思表示したりするなど、4月から安田先生や専科の先生方と創り上げてきた学習の約束がしっかり身に付いていました。また、感心したのは、安田先生が一人の意見を取り上げた後に、その意見を全体に返したり、さらにその意見を深めたりするような発問や指示を意図的に行い、授業への集中を切らさないように展開している授業力でした。安田先生は今年の4月に本校に着任されたばかりですが、もうすでに本校研究を自分のものとし、さらにそこに自分なりの指導技術を加味している点にも大いに感心しました。

優先生と安田先生、二人の授業を参観させていただいて、改めて感じたことは、やはり小学校の授業は学級づくりがベースにある、ということです。高学年の子供たちと担任が信頼関係を築くのはそう簡単ではありません。この時期の子供たちは、どうしても大人を批判的な目で見ることが多くなり、時に反感や反発のエネルギーとして発出させることもあるからです。一方、それだけに信頼関係が結ばれると子供たちとの関係は強固になります。今回二人の授業から学級経営の確かさを感じました。優先生、安田先生お忙しい中授業提案ありがとうございました。

(文責：手代木)